

令和5年度萬鉄五郎記念美術館運営委員会会議録

1 開催日時

令和6年3月15日（金） 午後2時～午後4時

2 開催場所

花巻市東和総合支所第2会議室

3 出席者

(1) 出席委員9名

門馬優子会長職務代理者、杉本吉武委員、岩角聖孝委員、斎藤純委員、
小笠原卓雄委員、牧野幹委員、菊池房江委員、菊池忠久委員、菅沼緑委員

(2) 欠席委員1名 佐々木秀次会長、

(3) 事務局6名（萬鉄五郎記念美術館）

市川部長、平澤館長、梅原副館長兼生涯学習課長、滝浦上席主査、高橋主事、
小原学芸員

4 会議内容

事務局（梅原副館長）

定刻から5分ほどすぎましたので、始めさせていただきたいと思います。ただいまから萬鉄五郎記念美術館運営委員会を開催いたします。申し遅れましたが、当館副館長を兼ねております生涯学習課長の梅原と申します。よろしく願いいたします。本日の進行を務めさせていただきます。それでは議事に入ります前に、この会議の成立要件についてご説明いたします。

この会議は、萬鉄五郎記念美術館管理運営規則第9条第2項の規定により、議員の半数以上の出席により成立するとされておりますが、本日は9名出席されておりますことから、半数以上のご出席をいただいております、会議が成立していることをご報告申し上げます。また、佐々木会長ですが、都合により、今回の委員会は欠席でございます。今回の進行は会長職務代理でございます、門馬優子会長職務代理お願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。では以降次第に沿って進めさせていただきます。それでは、生涯学習部、市川部長よりご挨拶申し上げます。

事務局(市川部長)

はい。皆さんこんにちは。3月の大変お忙しいところをご出席賜りまして、たいへんありがとうございます。日頃から皆様には美術館の運営にご協力をいただいておりますことと、花巻市政発展の為に協力いただいておりますことに感謝申し上げます。萬は来年4開館40周年というような時期を迎えておりまして、やっぱり40年もいたしますといろいろな支障が起きておりまして、今年度は空調設備の方、改修工事を閉館してやっていたところではありますが、資材不足というようなことになってまして、一部資材が入らなく、遅れるなど、そのような状況もあります。市の施設たくさんありますけど、その中で計画的に改修をしながら、しっかり運営できるように進めていきたいと考えているところです。

市議会を現在開催しておりますけど昨日まで市議会の予算委員会というのがありました。昨日までの段階で、来年度の萬鉄五郎記念美術館の事業費については、委員会では承認をされたという状況でございます。あと本会議は19日にごさいますて、そこで決定されるという見込みになっております。皆様方には、今年度の事業を報告しながら、来年度の計画についても本日ご説明して、ご意見を賜りたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局(梅原副館長)

ありがとうございました。次に萬鉄五郎記念美術館平沢館長よりご挨拶申し上げます。

事務局(平沢館長)

こんにちは、3年ぶりの運営委員会となり、長らくご無沙汰していました。部長がお話したように、今年度の秋から空調設備の40年ぶりの改修工事をおこなっているのですが、現在もケーブル資材の納品が遅れており、まだ稼働はしてない状況です。1日も早く稼働して欲しいと思っておるところです。この工事関係で、今年度は秋からの一つの企画展がなくなったということもあり、入館者数に影響しており例年よりも少なくなっております。これを補うべく、夏に安野光雅という絵本の大御所の展覧会を開いたのですが、これが思ったような入館者が望めないという結果となりました。当館での安野展は、25年ぶりの開催だったのですが、今の若い人たちが安野光雅を知らない。40代以下の人たちが意外に知らないってことがわかって、入館者層を見るとやっぱり高齢の方々が多かったですね。

一方、花巻市ゆかりの企画を毎年開催しておりますが、今年は、早地峰山伏神楽の写真をずっと撮り続けてきた師岡和彦さんの写真展を開催して、これも結構好評いただいたところですので。そして先週から始まったのが、当館のコレクションをピックアップした盛岡出身の重石晃子さんの展覧会です。オープニングにはたくさん方々が80数名以上お越しいただき、県内各方面で話題になっている展覧会です。今日は、この機会に見ていただければなと思っております。以上概要を含めごあいさつといたします。ご審議よろしく願いいたします。

事務局（梅原副館長）

ありがとうございました。それでは議題に入ります前に、会議公開について確認をしたいと思います。花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、本会議を公開することとしてよろしいか、伺います。会議終了後に、本会議の議事録および資料がホームページにて公開されることとなりますが、公開するという点でよろしいでしょうか？

異議なしの声

事務局（梅原副館長）

ありがとうございます。それでは異議なしということで公開することにいたします。それでは議事に入らせていただきます。この後の議事の進行は萬鉄五郎記念美術館管理運営規則第8条第2号および同条第3号の規定により門馬会長職務代理に議長をお願いいたします。どうぞよろしく願いします。

門馬優子委員長職務代理

急遽、議長を務めさせていただくことになりました。門馬優子です。なにぶん不慣れでございますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。それでは早速ですが、議事に入ります。

報告事項、令和5年度萬鉄五郎記念美術館の運営状況についてを事務局からご説明をお願いいたします。

－事務局説明－

門馬優子委員長職務代理

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありましたが、皆様の方からご意見ご質問等ありましたら、お願いいたします。

斎藤純委員

はい。「安野光雅展」は、これは巡回展ですか。それとも単独企画展ですか。

事務局(平澤館長)

単独企画展です。

事務局(平澤館長)

あの、安野光雅美術館美術館って、町立美術館だけれども、借用料とるんですよ。公立美術館としてはあり得ないこと。全国の美術館のそういう組織に全く加入していない公立美術館なんですね。

それで町の収入にというふうなことから初めから考えていた美術館だったようなんですけども、開館した当時は、8万人ぐらい毎年入っていたんだけど今やもう1000人代です。なかなか何て言うんですかね大きな美術館とかデパートなんかだと借りるかもしれない。それで展示するから。じゃないと展示しないから借りないっていうことがあって、だからあまり公開されないから、安野光雅という存在がだんだん薄れていったっていうのが向こうに行って感じましたね。

斎藤純委員

やっぱりそうなんですね。25年ぶりって行ってましたけど。

事務局(平澤館長)

そうです。

斎藤純委員

そんなにたちましたけ？

事務局(平澤館長)

たちましたね。

門馬優子委員長職務代理

前回はすごいにぎわったのだけれどね。

事務局(平澤館長)

そうですね。前回はすごい人で

斎藤純委員

25年前ってことないよねって思ったんだけど。

門馬優子委員長職務代理

時がたつのははやいですね。

事務局(平澤館長)

向こうの学芸員がこっちに来て確認する作業の旅費なんかも全部こっちで。そんな感じ。

牧野幹委員

今のに関連して、そういう裏側のことはわからなかったのですが、安野光雅展自体はすごくいい企画だったと思うし、リピーターの方も結構いらしたんです。さっき館長さんが若い方がね、どうも知らない方が多いようなんですとおっしゃった。それは確かに私も感じますけど、とはいえ、やっぱりずっと伝え続けていかなければいけない作家さんではあるなって思うので、いろいろ裏側を聞きましたけれども、私にとってはありがたい展覧会だったなって感謝したいです。

事務局(平澤館長)

ありがとうございます。あの、初期の教師時代の作品とか、図工の教科書を制作していたとか、そういうふうなことから始まって晩年までのという流れだったので、そういう展覧会は今まで実はなかったらしいんですよ。だから安野光雅をずっと見てきた人はこんなにいい展覧会ってやっぱり言ってくれるんですけども、ちょっと真面目すぎるから一発じゃ、ちょっとね。絵本原画が見たいっていう感じはあったのかなという。狭いですからね、うちは。ただ、プロの人たちからはだいぶ好評でした。全国的に。だから日曜日美術館出たんですよ。日曜美術館が紹介してくれたんですよ。

牧野幹委員

やっぱり原点がわかるっていうことがなかなかなくて、作品自体に触れたり絵本を見たりする機会が多くても、一体どこからっていうところが今回教わった部分もあったので、すごく私は刺激的な展覧会だなと思いました。

斎藤純委員

こんなことやっていたんだっていうのもありましたもんね。

菊池忠久委員

事業実績には載っていませんけれども、昨年、こちらの美術館のご厚意により、レプリカを借りまして。大迫の活性化センターに展示させていただきました。こちらでやっていた『みんなの鉄五郎展』、これに合わせてもっと早くやればよかったんですが、気が付くのが遅くて、6月20日から7月9日までの20日間うちの方のミニギャラリーに飾らせていただきました。鑑賞者は高いレベルのレプリカであったので考えられな

いと書いてありました。300人ほどの鑑賞者はあったと思います。やはり見た方はみんなびっくりして、本物と見間違えて、こういうのは貸し出しあるの？と。レプリカといえ、一見本物の油絵みたいな感じで、みなさんすごく感心していました。こういうものを、またできればやりたいなと思ってます。確か去年のこの会議の中で、萬美術館のサテライト的なものがあったでもいいんじゃないかなって発言があったんですよ。各地域に図書館があるわけですから、図書館でもいろんな催し物とか行事を企画している。ですから、この鉄五郎展に合わせて、その図書館とか公共的なところと一緒にやれば、こちら本館のPRになる。お客様が来るんじゃないかなと思います。ですから、予算付けていただいて、レプリカどうにか増やしていただければいいかなと思っております。

事務局(平澤館長)

ありがとうございます。御挨拶でお話しようと思っていたんですけども、大迫の方でミニ展示をしたいというので相談がありまして、うちで萬の自画像とか一応代表作でレプリカ作っているものがあるので、それをお貸ししますということで、今お話したようなコミュニティセンターで展示していただいた。4、5点、だったと思うんですけども、結構一般の人はわからないようなレプリカもありますのでそれを活用していただければありがたいと思います。今後もこういう形でね、各地の公民館とか図書館とかでも展示できればなと思っております。

菊池忠久委員

皆さんね、レプリカとわからないものですから、なぜこれがあるのって観てました。

牧野幹委員

市内の児童等の写生会を例年開かれているんですけども、参加者が児童41名ってこれは、結構多くなって感じるんですよ。というのは、私イーハトーブ館の方で、「賢治さんの世界を描く絵画展」にちょっと携わらせていただいているんですが、ワークショップへの参加者というのが年々少なくなっているのです。今年度は11名だったんですね。それで、この人数というのがとても羨ましく感じまして、どういう呼びかけをすればこのぐらいの人数が集まるのか、それから、子供の参加者数の内訳っていうんですか、市内の児童等対象にしてるっていうけれども、東和町内の児童生徒の皆さんなのか、あるいは花巻各地から集まっているのかっていうことを、その二つをお聞きしたいです。

門馬優子委員長職務代理

事務局さんどうぞお願いします

事務局(平澤館長)

この41人、実は少ない。

牧野幹委員

少ないんじゃないくて、いや、多いじゃないですか。

事務局(平澤館長)

いや、少ないんですよ。

牧野幹委員

少ないんですか。

事務局(平澤館長)

なぜかっていうと、これを写真見てもわかるように受付が美術館のロビーなんです
が、普通は外でやる。この時は雨だったんですよ。雨降った日だから41人も実は来る
とは思わなかったんですね。いつもは70だから

牧野幹委員

そんなに。すごい。

事務局(平澤館長)

実際には合併してから、合併する前からかな？いわゆる東和町じゃなくて花巻市内全
部の小学校、中学校。近隣の北上、遠野も出してるんです。ただそこはあんまり少な
いと思うんですけども、なぜくるのか。初め実はですね、だんだん少なくなったんで
すよ。プリントかな。一応これ、作品をうちで全部毎日預かっているんです。作品を
返してなくて、それをスキャニングして、エコバックにプリントしてお返しするって
いう作業があるんですよ。

それは当然1ヶ月ぐらいですよその作業。アイロンプリントだから、そういう作業があ
るので、作品はこっちでずっと年々預かってコレクション、ストックしてるんですけ
ども、そういう形を始め、それが初めからそうじゃなくて、途中からそれをやりだし
てからまた増えてます。でも一時期やっぱり本当に数10人じゃなくて10数人ぐらいま
で減ったんですよ。何か増やす方法ということで、エコバックにプリントとかTシャツ
にプリントとかっていうことをやっています、結構な手間がかかりますけれども、
それで子供は小さい人たちが多いです。幼稚園から3年生ぐらいまでが結構多いんで
す。高学年になるほど少なくなってまして、中学生はましてや美術部の活動として連

れてこないとなかなかございますけれども、そういう形で。いつもとか70から80人ぐらい受付のものすごく大変になるくらい。

門馬優子委員長職務代理

開館以来の伝統ですね。うちの子供たちも3人参加して、人気です。

事務局(平澤館長)

だから、それがだんだん少なくなったんですね何もお土産出なくて。それでも何かをプレゼントして出していたようなんだけど。

門馬優子委員長職務代理

その記憶にないですね

事務局(平澤館長)

エコバックにプリントとかTシャツにプリントっていう作業で、プレゼントができて結構増えてきた。花巻市内、花巻の方の生徒が多いです。東和町よりもね、それを展覧会で毎年、東和図書館のギャラリーでやるというかたちでやっています。

門馬優子委員長職務代理

参考になさってください。

牧野幹委員

やっぱりきちんとそこは予算化されているってことですよね。

事務局(滝浦上席主査)

そうですね。まず参加費として500円まず頂戴しています。鉄五郎祭の一環なので

事務局(平澤館長)

500円でまかなえないと思うんですよね。プリント用紙って結構高いんですよ。だからプリント用紙が結構高くてね、その分、鉄五郎祭実行委員会の経費の方からいただくという形で。

牧野幹委員

ありがとうございました。

菊池房江委員

関連であれなんですけど、そういうふうな小さいときっていうのは美術に親しむの企画っていうのはとても大事なことになるので、例えば、今後ずっと続けていくときに、市から何かの予算を頂戴したり、児童関係の、いま、花巻は結構子供たちの、小さい子供さんのいるご家族が引っ越してきてるんです。というのは、結構保育とか、最近、待機児童の解消があったり、あとは何て言うのでしょうか、学童なんかも扱う時間も結

構長だったり、働く人たちもちろんですし、そしてその子育てする世代にとっても温かい企画がたくさんあるので、そういう意味で、小さいときからそういう例えば美術に親しむっていう体験の機会をいただくきっかけになるものには、やっぱりある程度市でも予算をつけてくださったり、そういう部分に捻出いただけるのであれば、ちょうど部長さんもいらしておりますので、この企画上手に続けていけるような形をちょっとこうなった予算ができればもっとしやすくなったりよそでも、例えばそういうものをイベントにしながら、いろんな形で企画が出てきたときに、美術と親しむ機会を大事にするためのそういう助成があれば、とてもいいんじゃないかと思うので、どうぞよろしく願いいたします。

門馬優子委員長職務代理

部長さんの方からですね

事務局(市川部長)

これは市の経費でやってるので、市でもつというよりやっぱり萬美術館は、県内でも珍しいというと、変ですけど美術館少ない中ですね、やっぱり評価されているし、おっしゃった通りですね、若い世代を花巻に住んでもらうっていうと変ですけども、魅力作りのためには、そういう美術館とかですね、賢治もそうですけど、そういう社会教育とか生涯学習の施設がたくさんあって、いろいろ魅力があるよっていうのもPRしているところですので、美術館は本当に良いPRのですね、材料になっているって思ってますので、そこはこれ以外にもいろんな予算とかですね、例えば今回例えば萬の絵を買ったりするようなことについても惜しまずやったりとかですし、この他にも例えば市の文化会館の美術展示などとか、あと子供たちのための講座。美術の講座なんかも、やっぱり夏休みとか冬休みにやったりしていますし、そういうのを捉えながら需要を考えながら予算を確保しているところを調べてその辺りは皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

門馬優子委員長職務代理

よろしく願いいたします。他に皆様の方から、ございませんか。

ないようですが、発言まだなされてない方からお一言ずつ何かございましたら、お願いします。菅沼委員さん。

菅沼緑委員

私常々思っているのですが、来年で40年ですか。あと10年経つと50年ということになるわけだし。そのあとこれから例えば50年を節目に美術館はもっと今のままじゃな

くて、もっと新しく、魅力のある施設に作り変えとかね、そういうようなことをこれから10年かけて考えていく節目なんじゃないかなっていうふうにはそんなふうには感じているんですけども、萬鉄五郎っていう人の魅力っていうのは、大正期から昭和の初めにかけて日本の美術界をリードした前衛的な作家だったんですけども、そういう大正デモクラシーの頃に、いろんなことがあったけれども、関東大震災とかいろんなことがあって、そういう中で、世の中の政情も不安定なようなときに、前衛を貫いて、ここまでやってきたっていう人のそういう精神をやっぴりもっと強く打ち出して、東和町に花巻にこういう素晴らしい美術館があるんだっていうことを、さらに強く訴えられるような。そういう施設にしてもらいたいなと願っています。

門馬優子委員長職務代理

部長さんと館長さんから何かそれについてありますか。

事務局(平澤館長)

収蔵品も結構たくさん増えてきていますので、いわゆる萬鉄五郎の常設と企画展、それから岩手県とかと萬鉄五郎に関係する日本の近代美術の作家の展示というコーナーが設けられるぐらいの収蔵品になっています。実際には。岩手の美術に関してはやっぱり萬があって、萬に続けみたいな形で、今現在まで、岩手の美術家は全国的にやっぱり取り上げられる作家が多いのは、すごいあるので、萬の系譜みたいなものが飾れるような美術館になれば、もっと幅の広い。現代技術もずっと継続的にやっているの、そういう意味からすると、それらを紹介する施設としてリニューアルするっていうことも10年越し内の計画に上げるべきだなと思います。ありがとうございます。

門馬優子委員長職務代理

部長さんは何か。

事務局(市川部長)

もちろんそういう将来見据えて計画を練っていかないといけないと思います。他の施設もございますけどもね、やっぱり気になっているのは、まだ萬鉄五郎を知らない人はいっぱいいるんですよ。花巻市内でもそうですよ。そういうところってどうしたらいいんだろうなということ、やっぱり気にしていて、全国的に超有名で専門家っていうと変ですけど、美術わかっている人たちは知らない人はいないわけですけども、市民がわからない。どうしてもやっぱり学校の先生に申し訳ないですけど、やっぱり美術の時間ってないわけですよ。はっきり言って、学校教育上は少ない中でいつも私言ってるんですけども、美術ってすごく重要で、経済と全く別のような感

じで捉えられてますけど、やっぱり綺麗なデザインが優れてるものを買うわけですから、美術って本当に重要だと思うんですよ。というのを訴えてはいるんですけど、学校教育ではなかなかできないとすれば、社会教育というかそういう中で、どれだけやってくかかっていうところなんですね。それでできるだけ美術館もそうですけども、やっぱり別の文化会館でも、ここ数年美術とか初めてルンピニー苑の展示なんかをやったんですけれども、それが好評でちょっとそういう美術に興味を持つ人たちも出てきたりとか、そういういろんな取り組みというかも、できないかなと思っております。おっしゃる通りだと思いますし、またもうちょっと底辺を広げなきゃいけないんだよねっていうのをいつも感じながら、どうしていけばいいんだろなっていう悩みを感じますね。どうしても美術とかですね音楽もそうなんですけどちょっと後回しにされてしまうという点ですが、そういう学校教育の中でどうしても趣味の世界というかですね、余裕のある人だけやってんじゃないの。というぐらいの感覚を受けて見られますので、そうじゃないんですよって。やっぱり小さいときから教育という大変ですけど、そういう意識作りっていうのは大切なんじゃないですか。というのは言ってるんですけども、最近自信なくなってきた。ぜひ皆さんのご指導とご協力をお願いしたいというふうに感じているというところであります。

事務局(平澤館長)

確かにそのとおりで。美術館としても来るのを待っているんじゃなくて、出てくっという活動をやっぱり今後推進していかなくちゃ。そのためにやっぱりスタッフの問題もあって、だからその辺の充実とともに出ていく、市内に出ていく、県内の出張展示なり、出張講演会とか、出張講座とか、そういうふうな普及活動を推進していく。素敵だなと思っております。

菊池忠久委員

私は今の考え方はですね。施設展示であれば施設に来なきゃならない。ですから、私は萬鉄五郎っていうのは、普通の生活の中で溶け込むような形の、展示をやればいいんじゃないかと。例えばコミュニティセンターに飾る、すると無料でいろんなイベントに来た時観る。例えば銀行の待合室に飾る。それで初めてそこで観て、萬鉄五郎ってこんな絵を描くんだと。建物の中に展示をするとすると、非常に意識が高くなるという場所になるんですよ。ですから、鉄五郎というものをもっと生活の中に根差した形で、普段に見れるところに、展示を増やしていけば私は、萬鉄五郎っていうのは子供にも、お年寄りもこの町は萬鉄五郎なんだ。花巻はこうなんだというイメージを持

つと思うんです。ですから新たな建物を造ってそうじゃないと思う。これだとお金を払って観ななきゃなんないんです。そういうのもありますが、もっと身近な形で入っていく方法を重ねていったらいいんじゃないかな、ということで実験的にコミュニティのギャラリーでやってみた。初めてそこで観た人が、萬鉄五郎ってこういうのかと知ってもらおう。

ですから入館者が難しいっていう部分はお金を払わなくても待合室とかで初めて触れるっていう、その機会を増やすことが一番大事じゃないかと、私個人的には思うんです。それでレプリカみたいなのをどんどん貸し出していただければ、非常に良いんですけど、そういう感じで事業やっていただければ、もっと身近な形で萬鉄五郎を捉えてくれるんじゃないかなと思います。

菅沼緑委員

例えばね、市の広報があるけれども、あれいろんなその事務的なことがいっぱいいろいろ書かれているけどその中に、1ページから2ページでもその文化的なページを作って、そこに萬の絵を、萬だけじゃなくても、宮沢賢治のこの関する絵だとか、写真だとか、そういう見て楽しめるようなそういうページがあって、そこに萬のことも入ってるっていうことになっていけば、だんだん広がっていくんじゃないかなという気はします。

事務局(市川部長)

今、広報の一番最後に、15日号の一番最後かな。それが文化や先人のページで、萬もあったり、光太郎とか、そういうコーナーがあります。一番最後のところですけどね。

菅沼緑委員

グラフィックがね。

事務局(平澤館長)

レイアウトの問題もあるかもしれないけど

事務局(市川部長)

割といや、これまで頑張って1ページ取ってずっとやってきていますから。継続的にやってきてるものなので、一番最後のいいページなんですけれどもね。

事務局(平澤館長)

あれ、一冊の本なんかにすれば面白いかもしれないね。

事務局(市川部長)

我々もそういう努力して、各館、記念館、賢治、毎月変えて出してるページです。なかなか反応はあんまりないんで、これいいですよとか言ってもらえたら、大変ありがたいのですけれども。萬の場合は『軽業師』紹介したんですよね。それをご覧になった方からこの絵の写真が欲しいってですね、気に入られましてですね。やはりご覧になる方が多いと思いますので、そういうところは継続してきたというふうに思います。

小笠原卓雄委員

昨年やったやつでは『みんなの萬鉄五郎展』というのは大変面白かったと思います。それから安野光雅のも良かったなと思います。あと、八丁土蔵で現代ものをやっているのだから、あれはとても楽しみにして毎回見に行きます。あと、ここは直接関係ないのかもしれませんがクラフトフェアというのが春と秋にありますね。あれはもう大変な人数の動員というか7万人とか8万人とかっていう。確かにその通りで、私も5月に来たときに駐車場がなくてですね、結局止められなくて帰りました。ということもあるので、もうちょっと駐車場を増やして欲しいなということもありますが、あれは何かもう少しこっちに繋げることができないのかなという。ちょっともどかしい感じも受けました。

それからあと、先ほど菊池さんもおっしゃっていましたが、やっぱり花巻市内の方はですねあんまりこっちに關心がない人が多いんです。いるんですね。でも、東和町の方は我が町のっていうか、我が村のっていうか、そういう意識があると思うんですが、花巻の町中の方がですね、あんまりわが市のというような意識がそんなにないなという感じは時々受けます。そこのところを何とかした方がいいんじゃないかなって。やっぱりこのサテライトをやっぱり市内につくったほうがいいんじゃないかと。とにかくここで何やってるか、ここでやってるものの一部とかやったら、前の企画のやつを持ってって見せるとか、何かそういうサテライトが欲しいなという感じがしますね。

ちょっと紹介してる程度ではやっぱり人は来ないし、こうやっていいのがありましたよということをもっともっと、なんていうか、知らせていくべきだなという感じを思っています。それからあと、美術だけじゃなくて、アートっていえば音楽とかもあると思うので、クラシック系の音楽をですね、ここでやれないかなという。会場がないということがあるわけですが、展示と展示の、企画展示と企画展示の間の何日か空白の部分を使ってですね、展示室で一気に演奏会をやるというような、そういう企画は

どうでしょうね。天井も高いですし、とても音響はいいんじゃないかと思うんですね。そこで例えば室内楽かなんかはどんとやってですね、人はそんなに来ないかもしれないけれども、良質なものを美術館でも提供できますっていうところを見せなければ、またちょっと別な魅力が出るんじゃないか。というようなことを感じてました。以上です。

事務局(平澤館長)

音楽もやってたんですけど、この頃少なくなって、コロナの関係もあつたんですけどその前は定期的にやって、クラシックっていうか、そんなにね、大々的な形でできる会場じゃないので、ただ、一番入ったのが実はですね、中学校の先生たちがやりました。ブラバンの先生がやった。菅原先生だったっけ。たちのグループが中学校の先生たちがやったブラスバンドの。音楽の先生ですけど、それらのグループがやっぱり、なぜ入ったかっていうと、教え子たちと父兄たちが200人ぐらいスロープにもずっと椅子並べて、その時はすごかったですね。

小笠原卓雄委員

宮守に宮守ホールっていう小さい300人ぐらいですか入るホールがありますね。あそこは非常に音楽には非常に良い音響環境で、小さいんですけども、とても音がちゃんと聞こえてくるっていう、そういうホールなんですけど、ああいうのが花巻にはないんですね。文化会館のホールもいいんですが、ちょっと人数多くて1000人、1200人を一気に集めるっていうのはやっぱり大変な仕事ですので、200人、300人をちゃんとうちやって、そして上質な音楽を提供できるっていう場所があれば、もっともっとまた別の広がりが出てくると思います。宮守のホールのようなものが花巻に欲しいわけですが、一気に欲しいって言うてもできるわけではありませんので、せっかくここに美術館がありますから、前にやられたようなことをもう少し定期的に、お願いできればちょっとPRにもなるし、クラシック系の音楽をやってる人ややっぱり発表したいんですよね。発表したいんですが、なかなか機会がないという、そういうことも聞こえてきます。なんかその辺、タイアップしてやれたらいいなと思います。

事務局(平澤館長)

いいですか。クラスの音楽の人もそうですけども絵の人も個人でやっている、いわゆる趣味もいろいろあると思うんですけど、発表したい。ところが場所がわからないとか、そういうふうな相談を実は県はやっているんですよ。我々全然知らないんですけども、各振興局、県内にそういうふうな文化活動、音楽、絵画、そういう文化活動を発

表したいっていう相談窓口はあるんですよ。ただ全然活用されてない、知らされてなくて、私も県の委員やっているんだけど、その実態がちょっと不明だと了解は入ってるんすよ。実は。

小笠原卓雄委員

そうなんですか。

事務局(平澤館長)

だからここでいうと、北上のさくらホールの管理団体にそのお金入ってるんですよ。あそこに相談するとそういうことをコーディネートしてくれるっていうシステムにはなっているんだけど、あんまり活用されていない。ちょっと問題がある。今ちょっとずつ使われているんだけど、あの宮古が活発にやっているんですよ。宮古の振興局沿岸三陸沿岸音楽祭とかそういうのやってますけど、ただ、他はあんまり活発じゃない。

事務局(市川部長)

なかなかお金の話しちゃうと元も子もないんですけど、やっぱりなかなか難しくてですね、文化会館大ホールと中ホールとかいろいろありますけど、文化会館はですね、まずは、大ホールは維持しなければいけないと、1000人規模のホールなんですけども、あれをなしにして建て替えるとしても50億から100億ぐらいかかっちゃうわけですから、そんなお金はないということで、大ホールは維持しようということで、大ホールは数年かけて雨漏り補修。まだあるんですけども、あと、舞台照明、あと釣り物って危険度があるやつから、まず直し、音響も今年度約2億5000万で直しているんで、その音響はどこにいてもちゃんと聞こえる音響にしていますから、200人でも、文化会館が1000人入れるイベントってあまりないです。どこでもちゃんと音が聞こえるというようなスピーカーを入れましたので、好評ですし、映画なんかもやって、映画館もないんで、映画もだいぶ評判も良いと聞いてますし、また大ホールではなくわざと階段を下りてきた下の入口で演奏会をしたり、工夫をしてやっいてるんです。この間の市民劇場の最終日にですね、演奏したいという人もありますので、いろいろ工夫して、芸術活動の発表の場も作りながら関心も持ってもらうような事業をやっています。高村高太郎記念館でもですね、記念館の中での演奏会、クラシックなどをして、毎年やってるわけですけども、そんな人は来ないですよ20人ぐらいしか来ないんですけども、やっぱりそれって新聞に載ったりとかですね、アピールはできますし。やりた

いって人もありますし、ぜひそれは少しずつではあるんですけど、いろいろやって芸術活動の支援やPRしてきているという状況です。

斎藤純委員

盛岡は玉山と合併してから、これ幸いとばかりに石川啄木を盛岡の出身にしちゃった。玉山の人たちは面白くないわけよ。盛岡の人じゃない。玉山の人だって思ってるんだけれども、何で花巻がさ、ね、せっかく萬という人がいるのに、花巻の先人に組み込まないのかなって。

斎藤純委員

組み込んでるの？でも、やっぱり宮沢賢治って巨人がいるもんだから、そっちばかりでしょ。

事務局(市川部長)

いやそっちばかりではない。

斎藤純委員

じゃない？

盛岡でも、盛岡の先人教育ってやってなくて、20数年ぐらい前だと思うんですけども、議員提案で、小学校で先人教育をやれと、盛岡市内の小学校は先人教育をやるようになったんですよ。それで盛岡出身のこういう先人がいるよって、子供たちに知られるようになったんで、大人より子供の方が知ってるんだけど。

事務局(市川部長)

いや、大丈夫ですよ先生。

斎藤純委員

やってるの？

事務局(市川部長)

学校教育ではですね、昔に比べると、っていうと変ですけども、やっぱり地域に根ざした教育ってかなりやっていますよね。萬だったり、例えば毘沙門天とかですね、やっぱりそういう地域の文化に根ざしたようなものを学習させます。当然他に花巻も宮沢賢治は南城小とか花小ですし、石鳥谷に行けば淵澤能恵とか谷内貞治とかそういう人たちを中心とししながら、地域を愛する心を育てようということで、学校教育はやっているし、かといって萬は別だとかそんなことはなくて、そういうのも含めて先人教育ということでやってはいるわけですけども、そんなに、なんていうんですかね。前から言ってる通り学校も忙しくてっていうと変ですけども、先人教育とかが

ていうよりどっちかっていうともう、5教科の学力低下を何とかしなければいけないというレベルなんです。そういう中でずいぶんと花巻市は学業もですしスポーツも頑張ってるし、そういう地域に根ざした活動にも子供達出してるし、協力はしてるんじゃないかなと私は思っていました。なかなかそこって当然難しいんですけども、いっぱい先人いるっていうのは、いっぱいいるわけですけども、そういう中でやっぱりいろんな生き方とかそういう先人がいるっていうのを紹介して頑張ってますし、なかなか例えば大谷とか、菊池雄星なんかももっと使うべきではないかというような意見も、すごくあるんです。ただそれはそれとしてまず賢治とかいろいろそういう紹介をしながら、やってかなきゃいけないっていう、比較的學校はやってるんじゃないかなと私は思っていました。

門馬優子委員長職務代理

校長先生何か。

岩角聖孝委員

はい。中学校の校長の岩角と申します。4月から私お世話になってまして、私は専門体育なんですけれども、ぜんぜん芸術のあれではないんですが、うちの學校はそういう萬さんの、まず、そのすぐ隣にありますので、私の中ではその地域の教育っていうのはやっぱり大切であって、特にもうち學校、すごく立派で、ですね、美術の作品をしつかりと飾ったりできる學校です。私は結構それに、体育ですけど、結構重きを置いてる。うちの部活動の話を使うと、実は今、任意の部活動なんです。昔の強制じゃないんです。どこの學校もそうなるんですけどうちの學校で、うちの學校の方だけ言いますと、総合文化部とか昔の美術部みたいな感じなんですけど、それが一番多いんですよ。20人です。実は、昔は仕方なく強制だから仕方なく入るかな、っていう子がいたんですけど、今はどこの學校でも意外と、やりたいということで一生懸命取り組んでる。うちの美術の先生も大迫に住んでる方なんですけども、一生懸命やってるので結構人気でしつかりとやっています。なので、私はそこを活かして実はその土沢アートクラフトフェアにブースを作っていました。佐々長さん前のブースで作品とワークショップをやらせていただき、かなり好評で後は結構おとなしい子も多いんですけど、かなり自信になってます。やったということで。萬さんの直接っていうことではないんですけど。中学校、今、実は総合的な学習の時間っていうのがあるんですよ。これ、ここは総合的な探究の学習というのがあって、そういうのをいろいろ5教科全部やった。9教科もやった中で、正解のない答えですかね。地域のためにやる

とか、活性のためにやるものを、こう考えていきましょう。3年通してとかですね。そういうがあるので、実はそのなかでコロナを開けましたので、やっていこうというふうに本当は考えていて、実は動いてると。来年以降も当然クラフトさんには、春と秋に2回やるということで、実は中身はまた別ですけども、これはずっとやっぱ続けていかなきゃないと思いますし、あのさっきちょっとありますけれども、吹奏楽部も頑張ってるんで、そういうのは美術と音楽のコラボができないかとか、うちの生徒は萬さんをどのぐらい知ってるかはちょっとこれまだまだ別でわからないんですけども、ただ美術によって心が耕されてですね、確実にしっとりとした学校生活を送るといことは、影響はいい部分が出てると思いますので、地域を知るとい部分も含めてですね、やっぱり私はやっていかなければならないんじゃないかと。他の学校では実はやってると思うんです。ほかの学校でももちろんやっていると思うんですけども、うちは特にやりやすいと思ってるんです。これをやらない手はないかと思っていました。

門馬優子委員長職務代理

心強いお話を伺いました。

岩角聖孝委員

すいませんもう1個なんですけど、実は部活動は今度地域移行っていうのが始まっています。

実は運動部が外部コーチっていうのがどこもついているわけですよ。

まず花巻市は、休日の地域移行からっていうことで、休日に土曜日やるんですけど土曜日にやる時に、お金を出すから、予算をつけるから、先生方の働き方も含めて、そこは地域で地域力の子供たち育てようと、いう感じで、運動は比較的それが見つかりやすいんですが、私、今苦勞してるのは文化部なんですよ。美術関係も、願わくばお願いしたいと思いますし、もっと厳しいな吹奏楽なんですよ。吹奏楽の指導者が、楽器は吹けるんだけど、全部網羅して教えることはできないってあるんですよ。ゆくゆくは学校の美術関係の活動も地域の方に協力していただいて、それを専門的な知識とか、あと地域の人と人の繋がりとかをやればいいじゃないか、やらなきゃいけないんだという時代だと思いますので、そういう部分をよろしくお願いしたいと思います。

事務局(平澤館長)

はい、できることがあれば、はい

齋藤純委員

学校の文化的な部活を美術館とちゃんと連携してやるっていうのは、それはOKなんですよ。認められていると思うんです。

岩角聖孝委員

私はそういうのが理想だと思います。それはできるんですね。

事務局(平澤館長)

スポーツ少年団ってあるあるけど文化少年団みたいな感じの愛好会みたいなところが今後作れていけば、いいんじゃないかなって思ってますけど。

門馬優子委員長職務代理

杉本委員さん、何かございませんか。

杉本吉武委員

先ほど皆さんのお話で、花巻っていうのはつくづく今の時代にやっと、今の時代が鉄五郎とか賢治とかそれがやっと追いついたって。早かったんですねあまりにも最後まで。それが今や、情報発信の真ん中にいると思うんですけど、今こそ花巻市の戦略として、この偉人たち、大谷ばかりじゃなくて、あまりにも人材が優れているという。これを一括で打ち出すっていうか、もう県内でこの萬がいたっていうのを知らないっていうのは本当恥だしね。やっぱり全国に行った、花巻ってこんな人材、スポーツ、音楽、詩人とか、いるっていうのをね、やっぱり打ち出すために、観光ポスターみたいなね、一括でやる時期だと思うんですよ。あれ花巻どこ、盛岡の下が、何らかあるという場所、それをもう1回花巻市の観光もあるから、それと一緒にそういう美術とかねそういう、偉人たちのあれを花巻出身だっていう。大谷ばかりじゃなくて、そこでこうゆうふうな文化人を輩出してるとっていうね。それをもう1回打ち出してもいいような気がするんです。そのためにやっぱり駅張りのポスターでもね、観光誘致のため、賢治と鉄五郎とかセットでね、そこに大谷が入ってもいいいだろうし、そういう町だっていうので、文武両道の町っていうのはなかなかないですよ、全国でそうそう出せるもの。つまらないあれ、1人やったってね、駄目な話だよ、そういう、いろんなのを持ってる町っていう。それで自然環境にとかね、岩手県中心の場所。いくらでもうちだせる。そういう時期に来てるんじゃない？ここにこうね、賢治だ、鉄五郎だっていうのをそっちへの趣味っていうか、興味ある人がね、あれだけ専門家ばかりじゃない。こういう偉人、スポーツ人が出てるんだっていう街でね、それが岩手県のPRにも、そして花巻市。そういうふうな差別化の時代でね、それをもっと打ち出した方

がいいと思います。そうすると、全部名前も知名度も全てこの人はこういう仕事をしていたという。1回でわかるような、そういうPRの仕方した方がそれから、花巻市のさらに全国発信できるんじゃないかな。モノも素材もある。それと、もう一度、萬没後100年にそろえたり、何かの機会にそれを一括して、きっかけにね、打ち出せるようなPRの仕方を考えてもいいんじゃないかと思います。

事務局(市川部長)

念のため申しますけど、大谷は奥州市出身。菊池雄星は東和にお父様とお母様が、当人は盛岡出身ということでありまして、おっしゃった通りですねいろいろあるということなんですけれども、やっぱりそれって突然出てきたんじゃないくて、宮沢賢治の宮沢家だってですね、萬の萬家も軽便鉄道に出資しているような、要はやっぱり盛岡に負けるなっていうことで、花巻の商業地、土沢も含めてですよ、この地方の人たちで、力ですね、東北でも初めての電車を走らせてたりしてるような中で、萬みたいな文化人まで賢治もそうですよね。そういう中で、光太郎は賢治に呼ばれてきたとかですね。そういうような流れってやっぱりあって、大谷とかですね菊池雄星もその流れの一つなんですよね。東高校がやっぱりあって、東高校として先生方が、いい先生がいて、野球もそうやって応援する市民もいて、そういうのをやっぱり教育とか社会教育が花巻は。っていう辺りをPRできればね。美術がどうだっていうわけじゃなくて、そういうところで花巻に人が住んでくれるような魅力を持って、人が来てくれるようにしていけばいいっていうような、おっしゃる通りだと思います。そこはいろいろやっぱりPRポイントになっているんじゃないか先人をPRして観光客っていうよりも、もっと大きく何かできそうなところもあると思うので、ご意見として、いただきたいと思います。ありがとうございます。

斎藤純委員

ポスターは杉本さんで。

事務局(市川部長)

大変ですよ。いっぱい。

門馬優子委員長職務代理

はい、ありがとうございます。将来の計画の方にまで話が続きましてけれども、続きまして、令和6年度萬鉄五郎記念美術館運営計画について議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

門馬優子委員長職務代理

はい、以上で事務局から説明は終わりましたが、皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

斎藤純委員

また同じ質問なんですけど、オードリー・イン・シネマは巡回展ですか。

事務局(平澤館長)

巡回展です。

斎藤純委員

動物の浮世絵展は？こっちのほうが高い？

事務局(平澤館長)

まあ。でも、これは、一応展示まで全部入っている形です。

斎藤純委員

これも巡回？

事務局(平澤館長)

これも巡回です。去年もやっていて、これが2会場目です。

斎藤純委員

オードリー・イン・シネマは本が出てますよね。

事務局(平澤館長)

出てます。でもね、二、三冊出てまして、そのパターンがあるので、その一つです。

斎藤純委員

そんなに出版しているんですか

事務局(平澤館長)

2、3冊出ています。

菊池忠久委員

ハイビジョンソフト上映出前講座ですけども、去年も同じように、平成30年以降、利用されてない。鉄五郎展の時に上映するという事だったんですが、令和5年度にこれ実施したのか。それとも令和5年度は無く、今年の四月のそのときに上映するのか。

以前私が、質問したとき、設備的な問題でちょっと予算のかかるお話されたんですけど、鉄人会がやっていますから職員じゃないわけで。その辺ちょっと問題あるのかなって感じですかね。実際に何か支障がありますか。

事務局(平澤館長)

館内で放映するということですか

菊池忠久委員

はい。

事務局(平澤館長)

その支障はないですね。展覧会に合わせて萬関連ときは、だんだんしたいなと思って
おります。

菊池忠久委員

今年6年度の事業では、計画にはまだ入っていないのですか。

事務局(平澤館長)

はい。

菊池忠久委員

せっかくこういうものがあるので観られるようなかたちで、観ていただく。それでい
ろんな事業で使えるのであれば利用したいと思います。ありがとうございます。

あとすみません。全体的なことですが昨年度入館者を増やすためにチケットのあり方
でいろいろ白熱した議論されたんですよね。生涯学習部さんは賢治記念館とかいろん
な施設持っているんですけども、施設の人たちが集まったとき、こういう話題は、検
討とかされたんでしょうか？

事務局(市川部長)

集まったりっていうのはわからないですけども、前回もお話したと思いますけども、
宮沢賢治記念館周辺の4館は割引券というのがありますと、あと、東和は土沢線のバス
利用者が割引するっていうようなことであったり。

中心となる4館。賢治施設周辺の4館とこっちを入れるかとなると、また別ですよ
ね。他にもあるんですよ。他、つまり高村高太郎記念館とか石鳥谷にも施設があっ
て、11館でクーポン処理、つまり旅行会社が後払いできるようなことをやったりなど
いろいろやってきました。現段階で萬を入れていっぱいになれば割引するっていうのは
考えていない。つまり、4館+萬というのは需要があるかっていうのはちょっとなか
か厳しいんじゃないかなと思います。今4館でもそんなにあるわけではないんです。4
館って、賢治記念館と童話村、博物館に、新渡戸記念館ですね、近いところですよ
ね。新渡戸まで行くかっていうと、いかないあるいは、博物館もいかない。童話村と
記念館。

事務局(平澤館長)

やっぱりあれ、2会場とか3会場とかっていうチケットにわかれてましたよね。4会場とか。

事務局(平澤館長)

2館、3館、4館で分かれていて、3つまでチケット選ぶ人は実際少ない。2館で賢治と童話村で、って。

事務局(平澤館長)

近いからってことですからね。やっぱりね。そこはいろいろ考えながらやってるっていう現状です。

菊池忠久委員

昨年度一度に観るのじゃなくて、例えば花巻市民の方が年間通じてなら、結構観れるとか、そういういろいろな意見出たんです。

ですからそういうのを、今後検討していただければと思います。

一度、一日の期間で観るのも一つあると思いますが、やはり市民の方が年間通じて何度か来れば、年間券があれば、そういうものも、いろいろ工夫してもらえれば、ありがたい。先ほど入館者を増やそうと色々なアイデアが出てきましたけども、やはりチケットを工夫するのも一つあるんじゃないかと思いますので、検討いただければいいと思います。

事務局(市川部長)

それは市民のチケット的なことですか。

菊池忠久委員

はい。

牧野幹委員

はい。要望を一つ。動物の浮世絵展というのが開かれるということで、以前にやったって言う…今回初めてですか？

事務局(平澤館長)

今回初めてです。

牧野幹委員

それで浮世絵の楽しみ方を再発見するという企画の狙いがあるので、関連催事として。関係者による講演会なり、ギャラリートークというようなものを企画していただきたいです。

事務局(平澤館長)

考えているんですが、この関係者の、これを監修している方が神戸の人なんですけども、ちょっと89歳の高齢なんですよね。

だから、この人を呼ぶと、付き添いの人、2人呼ばなきゃいけないっていうのもあって、講演会の経費も予算要求取っているんですけども、それでまかなえるか、また呼んだからといって、何分間話せるかっていうのもあんまり例えば90分とか話せるっていう感じじゃないみたいなので、それで効果あるか今ちょっとそういうの迷っているところなんですよ実は。

牧野幹委員

ちょっと敷居が低くなって、皆さん関心を持ってくださるかなと思ったので。

事務局(平澤館長)

はい、頑張ります。

菅沼緑委員

私は途中、東和町に来てまず22年か3年ぐらいなんですけれども、先輩の人たちから比べればまだ知らないことがたくさんあるんですけれども、萬美術館のやっぱり前衛の萬鉄郎っていうことを私はすごく大事に思って、個人的にですけれどもね、思っているんですけれども、そういうなんていうかな、美術の世界を切り開いていく人だったと思うんですけれども、そういう萬の姿勢っていうのをもっとたくさん感じられるような活動がしていってもらえると私としては嬉しいなと思っています。もちろん古い先人の人たちのやってきたことを検証するっていうことも、もちろん大事だけれども、それはやっぱり先に進むための一つの力として、そういう検証っていうのが行われるべきであって、結局何ていうか、最終的なだから文化の目的っていうのは、先に進むことじゃないかなと私は個人的な想定にずっと考えています。そういう何か非常に漠然とした抽象的な話ですけれども。

菊池房江委員

私はこの間、収蔵庫を見せていただいてこの旧土沢小学校の、すごく立派ないい形の施設で何人かでを見せていただいてきたんですが、本当に大事な美術品の管理するっていうことについて当初から収蔵庫がない当時から耐えてきた部分ってすごくそこはとても素晴らしい形でいろんな答弁が管理運営がされてるってことに感激してきました。今後とも、またこの収蔵庫を最初にまたこの先も、いろんなその作品のこれからも大事に収蔵していくっていうかそれもそうですし、新しいものが増えてきたとき

に、それをまたなんていうか、いい形で、またそのコーナーとかきちっとそういう収蔵の仕方も研究しながら、たくさんあるこの作品、それから関連作品がこれからまた大事に、美術館の中で展示会のときに良い形で皆さんの目に触れていただけるようなスタンバイをしてきちっと収蔵していただくとありがたいなと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

門馬優子委員長職務代理

調査収蔵庫のことについて何かおっしゃりたいことがあれば。

事務局(平澤館長)

収蔵庫が新しくできて、非常に助かっています。ちょっと離れていますけども、でもやっぱりそこ小学校の校舎を一つ収蔵庫とあと作業スペースということで、作業する今回の作品もそうだけども、額入れとか、前日もマット切りとかそういうふうなこともできるスペースがあるので、あと整理したり、図書整理したりそういうふうな形で置いておけるっていうところがあるということだけでも非常に効率的に展覧会も開けてると思います。

杉本吉武委員

先ほどもいいましたが、萬鉄五郎の没後100年ですか

事務局(平澤館長)

100年。

杉本吉武委員

そういう企画は今、構想は。

事務局(平澤館長)

いいえまだ何かまだ進んでない。

140年展はちょっとこれは萬じゃなくてあれなんですけども生誕140年は。没後100年おそらく国立近代美術館がやりそうな感じすごいどう乗るかみたいところを今ちょっと模索してるんです。

杉本吉武委員

逆に、あっちに貸し出すっていう形になるか巡回するか共催みたいな

事務局(平澤館長)

うん、巡回するか、共催みたいな形になれるか。

杉本吉武委員

いや、本当にチャンスがやっぱり萬は早すぎたんだよねあんまりね。今はあの時代に本当に萬っていうのは、そういうアバンギャルドって時代がやっとな、ちょっと10年前、20年前は関係者はね、すごい人だっていうのはわかってる。一般に名前はね、だからさっきも話出たとおり岩手の花巻から出たっていうのをこれもっと打ち出してもいいと思う。野球ばかりじゃなく、同じそういう土壌からそういう芸術とスポーツってね、なんか噛み合わせて今の時代に合わせれば、かなりインパクトあると。うまく使える。使うっていうのもあれだけれどね、もう少し出してもいいんじゃないか。どっちがどうスポーツが上、芸術が上とかではなく。そういうどっちの才能も持った生まれる土地っていうのはそういう土壌があるのは花巻市だって。これはなかなかできない。一つはあってもね。それ自体が岩手県、あるいは東北。青森は版画家のあれねって、そういうふうになるぐらいみんな知ってる。萬と賢治っていう組み合わせでやる手もあるんですよ。賢治はみんなあれだけど、そこにやっぱり萬も同じ花巻市から何キロの間から生誕したっていう。要はね、こうゆうふうな空間とかね、時間そこででたんだって思いますし。そういうふうなものをね、打ち出せば、すごいのはどっちとかでっはなく、花巻はいいの持っているとおもいますよ。そこをうまくPRやれば、今の時代にふさわしいんじゃないかなと思います。

事務局(市川部長)

ありがとうございます。

小笠原卓雄委員

ちょっと質問ですがオードリー・ヘプバーンのときは写真の展示ということですがけれども、映像は流すんですか。

事務局(平澤館長)

映像は今のところちょっとまだ検討ですね。うちが、モニター一つしかないものだから、どういう形でやるか、ちょっとそこは検討です。

小笠原卓雄委員

やっぱりみんな映像で知ってるわけですよ。いろんな映画ですから、やっぱそれを抜粋でばあっと見せるのがあってもいいだろうし、何か今言われた来館者にどの映画が好みですかみたいな、そういうアンケートをとってランクを見せるとかですね、なんかいろんな企画はこれからできそうな気がそうですね。

何か来た人が、やっぱりもうとても自分が参加して楽しかったみたいな、そういう印象が持てるような企画ができそうです。もうちょっと広がるかなと感じますね。

事務局(平澤館長)

ありがとうございます。ただ、権利問題ですね。

小笠原卓雄委員

それである、なんていうか映画を見せてお金を取るわけじゃないから、抜粋でばっと見せるっていうのは別に構わないと思うし、ビデオもいっぱい出てますので、そういうのをぜひやってほしいと思います。

門馬優子委員長職務代理

皆様から何か言い忘れたこととか、ぜひ一言言いたいということがございましたら。今月の花巻の広報、移住者がテーマになっているんですけども、よく花巻の方にいらっしゃる方で賢治に憧れて、花巻に住むことにしました。とかっていう話は聞くんですけど、萬鉄五郎に憧れて東和のほうに来たという話をまず聞かないんですけど、そういう意味で、ぜひ移住してきた方たちに、東和で輩出した鉄五郎のことをまず知ってほしいと、そういう知っていただくための何かアイデアをぜひお伝えください。若い世代が結構ね、入ってきてますので、東和のみならず花巻全市にですね、そういうことを考えていただきたいと思います。

事務局(平澤館長)

はい。

門馬優子委員長職務代理

皆様の方から何かございませんか。

いろいろ貴重な意見ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、議長の務めを終わらせていただきたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

事務局(梅原副館長)

門馬議長職務代理ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度萬鉄五郎記念美術館運営委員会を閉会いたします。

委員の皆様本日はありがとうございました。